



平成 30 年 8 月 1 日

各 位

会 社 名 株式会社インテリジェント ウェイブ
代 表 社 名 代表取締役社長 井関 司
(コード番号：4847 東証第二部)
問 合 せ 先 専務取締役 垣東 充
(TEL. 03-6222-7015)

中期事業計画策定に関するお知らせ

当社は、平成 29 年 8 月 2 日に開示した中期事業計画(旧計画)を見直して、平成 31 年 6 月期から平成 33 年 6 月期に至る中期事業計画(新計画)を策定したので、お知らせします。

記

(新計画)

(単位：百万円)

	平成 30 年 6 月期 (実績)	平成 31 年 6 月期 (予想)	平成 32 年 6 月期 (計画)	平成 33 年 6 月期 (計画)
売上高	10,603	10,700	11,000	11,200
金融システムソリューション事業	9,332	9,300	9,500	9,600
プロダクトソリューション事業	1,271	1,400	1,500	1,600
営業利益(率)	547 (5.2%)	880 (8.2%)	930 (8.5%)	1,000 (8.9%)

(旧計画)

(単位：百万円)

	平成 29 年 6 月期 (実績)	平成 30 年 6 月期 (予想)	平成 31 年 6 月期 (計画)	平成 32 年 6 月期 (計画)
売上高	8,469	9,000	10,000	10,500
金融システムソリューション事業	7,447	7,700	8,550	8,900
プロダクトソリューション事業	1,022	1,300	1,450	1,600
営業利益(率)	702 (8.3%)	850 (9.4%)	950 (9.5%)	1,000 (9.5%)

当社は、平成 30 年 6 月期において、平成 32 年 6 月期に売上高 10,500 百万円を目指すこととした旧計画を前倒しで達成したため、改めて「100 億円を超える売上高の継続」と「営業利益 10 億円達成」を目標とした新計画を策定しました。

当社の主要な事業である金融システムソリューション事業においては、平成 30 年 6 月期まで、キャッシュレス社会の進展を背景としたシステム開発案件の増加と、特定の大型開発案件の売上高の成長を要因として売上高を伸ばしてきました。このうち大型開発案件については、当社が担う機能部分の開発は一定の工程と水準に到達したため、平成 30 年 6 月期を境に、この案件に係る当社の開発業務の規模

は順次縮小していく見込みです。かつ、平成 32 年 6 月期に係る計画は未確定であり、この案件の売上高は不確実性が増しています。

平成 31 年 6 月期においては、既存顧客を中心にクレジットカードやスマートフォン決済等、多様化する決済手段の完遂のためのネットワーク接続を実現するシステム開発の売上高を伸ばすことで、大型開発案件の規模縮小分を補うこととしており、かつ、平成 32 年 6 月期以降この売上規模を継続して確保していくこととしています。

また、当社は、クレジットカードのアクワイアリング業務や不正検知業務等、関連する業務のクラウドサービス化を進め、新規の顧客の獲得に積極的に取り組むことでこのクラウドサービス事業を中期的に成長させることとしています。

こうした条件を前提として、新計画を策定しました。

特定の大型開発案件の推移によらず 100 億円を超える売上高を継続し、かつ下振れすることのない計画づくりを前提に新計画を策定しました。

これまでの実績に比べると、ほぼ横ばいの売上高となる計画ですが、当社の成長が停滞することを示唆するものではありません。今後とも採用活動を継続し、人員を増やし体制を強化することで、積極的に売上高の上積みを目指し、計画の上振れ達成を志向します。

営業利益については、旧計画に続いて 10 億円の達成を目指します。

開発プロジェクトの管理強化を進め、着実な開発業務の執行を担う人材育成の取り組みを進めることで継続的に適正な利益を確保し、伸ばすことができる体制づくりに努めていきます。

以上